

様式1 令和6年度 山梨県立富士見支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)【本校】

|           |   |
|-----------|---|
| 学校目標・経営方針 | 児童生徒たちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む |
|-----------|---|

山梨県立富士見支援学校校長 雨宮靖子

|          |  |
|----------|--|
| 本年度の重点目標 | 1 児童生徒一人一人に即した支援や学習指導に努めるとともに、教育環境に応じた最大限の学習機会の提供に努め、確かな学力を育む。 |
|          | 2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会参加と協働に向けての資質を育む。                  |
|          | 3 病弱教育の充実とセンター的機能の発揮に努める。                                      |

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上)  |
|     | B 概ね達成できた。(6割以上)  |
|     | C 不十分である。(4割以上)   |
|     | D 達成できなかった。(4割以下) |

|    |              |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。   |
|    | 3 できている。     |
|    | 2 あまりできていない。 |
|    | 1 できていない。    |

| 自己評価     |   |  |                               |
|----------|---|--|-------------------------------|
| 本年度の重点目標 |   |  |                               |
| 番号       | 評価項目  | 具体的方策  | 方策の評価指標                       |
| 1        | 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育むとともに、達成感や自己肯定感を育む。 | 児童生徒の実態に合った的確な個別の指導計画を作成する。それに基づいて学習の状況や結果を適切に評価し、教科間での連携を深めながら教科横断的な指導の改善を図る。<br>ICTの活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。       | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) |
| 2        | 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、自立を目指す態度を育成する。               | 教育課程に児童生徒の心身の状態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。<br>道徳教育や保健教育と関連させ学校生活全体を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。   | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) |
| 3        | 病弱教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。                      | 積極的な情報発信を行い、病弱教育への理解と啓発に努めるとともに、関係機関との連携を充実させる。センター的機能を発揮して、地域の児童生徒を支援するとともに、身体的疾患を抱える高校生に対する支援について高校教員に向けて理解啓発を図る。<br>専門性の向上、研究・研修の充実を図る。                 | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) |
| 4        | 多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を目指していく。                            | 児童生徒・保護者・関係機関等との対応及び会議の延長における時間外勤務の振り替えを適切に行うことにより、教職員の多忙化・多忙感の解消に努める。また、定時退庁日を確実に実行するようにし、無理な場合は同じ月内で個々に振り替えを行う。年休を取得しやすい環境を整えることで、年間16日以上年休を取得できるように努める。 | 教職員アンケートによる検証                 |

| 年度末評価(2月3日現在)   |     |   |
|---|-----|---|
| 自己評価結果  | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>学期毎に個別の指導計画の検証を行い、その時々児童生徒の実態にあった計画を関係教員で連携しながら作成し、教科横断的な指導の改善を図ることができた。</li> <li>情報活用能力体系表、およびチェック表の活用により児童生徒の実態を把握し、ICTの効果的な活用実践を行い、児童生徒の主体的な学びにつなげることができた。</li> <li>PTA研修会を行い、児童生徒とICTの使用について考える機会をつくり、ICTへの理解促進を</li> </ul>  | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、児童生徒の実態に合った指導計画を検討及び実施していく。日頃から関係教員間でのPDCAサイクルを意識し、必要に応じて授業改善を行い、質の高い教科横断的な指導を実施していく。</li> <li>ICTの効果的な活用をさらに検討しつつ、デジタルとアナログの良いところを取り入れながら、指導法を工夫し授業改善を行う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育に関して、必要なタイミングで児童生徒の実態把握を行い、進路指導計画も参考にしながら、その都度身につけさせたい力を教員間で確認し、支援方法を検討及び実施できた。しかし、児童生徒の実態や家庭的な課題によりキャリア教育の計画と実施が円滑にできないケースも増えてきている。</li> <li>中学部2年生の職場体験を実施予定であったが、生徒の実態により実施することができなかった。</li> <li>道徳教育では、教科としての学習の他に全校の児童生徒が取り組む愛校作業を計画実施した。</li> <li>行事と関連させて「熱中症対策」、冬の感染症の時期には「免疫ケア」「ハンドケア」の動画視聴を全クラスで行った。また、手洗い実験を併せて行った。</li> </ul>  | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も児童生徒の的確な実態把握を行い適切な支援を検討する。必要に応じて保護者に対してもキャリア教育について意識できるような働きかけを行う。</li> <li>職場体験に関しては、基本的には中学部2年生で実施することが望ましいが、学年にとらわれず、各生徒が必要な時期に職場体験を実施できるよう柔軟な対応ができるようにする。</li> <li>熱中症対策、感染症対策などを行った結果として、安全で健康な行事を実施することができた。来年度以降は、医療の協力体制を維持しつつ、児童生徒の生活リズムの確立を目指したい。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会等の機会を使って、本校のセンター的機能について小中学校や市町村教委などへの説明を実施した。</li> <li>センター的機能においては学校、保護者、医療機関と連携を図り、支援の方向性を確認しながら対応することができた。また特別支援学校間でも連携し、協働して対応したケースもあった。1月末現在で33件の相談があり、20件の訪問要請を受けた。訪問支援を実施し、地域の先生方へ直接的な支援をすることができた。</li> <li>病弱連携会議では、病弱支援学級担任や院内学級担任に、研修会等を実施した。担任の困りや現状と課題を地教委や県教委に共有した。</li> <li>高校生支援についてはリーフレットを養護教諭部会などで配布、説明した。昨年度は0件であったが、今年度は3校からの電話相談があった。</li> <li>配置された心理士による校内研修の他、本校在籍中の児童生徒のケースカンファレンスを行った。具体的な支援の方法を学び、本校教員の専門性の向上につながる機会となった。</li> </ul> | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>複雑化した主訴の場合は早期に問題解決することは少ない。二次障害などの問題が複雑化する前に早期に支援ができるようにするとともに、短期的な目標のもとに支援策を考え、それを積み重ねていく長期的な支援が必要である。早い段階から継続的な支援を行っていきけるようにセンター的機能の周知と利用を積極的に働きかけていく。</li> <li>病弱連携会議では、病弱支援学級担任や院内学級担任に、研修会や情報交換会を実施し、病弱教育に関わる地域の先生方を支援する。</li> <li>慢性疾患を抱える高校生へ本校の専門性を発揮できるようにさらに理解啓発に努めていく。</li> <li>配置の心理士を活用し、今後も本校教員の専門性の向上に努めていく。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や会議棟で時間外勤務をした場合は、個人で管理職に申告してもらい、自分の都合の良いときに振り替えを行ってもらった。また、定時退庁日を月2回設定し、都合悪い場合は、別の日に取ってもらった。1年間の年休は昨年より1日減ってしまったが、15日取得できた。</li> </ul>   | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も関係機関との連携や、会議の時間が時間外勤務になった場合は、同様に記録し、別の日に休んでもらうことは徹底していきたい。年休も15日程度は取ってもらえるよう、環境を整えていく。学校評価としては特に取り上げないが、次年度は、規程類集を見直し、また、多忙化改善を推し進めて行けるよう工夫していきたい。</li> </ul>  |

| 学校関係者評価        |  |
|----------------|--|
| 実施日(令和7年3月13日) |  |
| 評価             | 意見・要望等   |
| 4              | <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が児童生徒に丁寧寄り添い、教育支援ニーズの把握に努めている様子がうかがえる。</li> <li>児童生徒の実態に応じて、柔軟に教育活動が実施されている。転籍後のことを考えると、地域(前籍)の学校におけるICT活用状況を貴教職員が確認し、教育活動に反映できるとよりよいと考えられる。</li> <li>個々の病状や特性に合った指導がより良くできていると考えられる。ITの活用についても工夫がなされていると感じた。</li> </ul>   |
| 4              | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に応じて、柔軟に教育活動が実施されている。</li> <li>アンケート結果から、児童生徒にとって、学校が安心できる場所であることがわかる。大人・教職員との信頼関係が築かれている様子が高く評価できる。</li> <li>保護者との連携に関わり、児童生徒の日々の様子に関する保護者への情報提供の充実にもむけた改善が望まれる。</li> <li>進路指導においては、先例や先輩の姿の紹介が継続されることが望ましい。</li> <li>家庭の事情が複雑になる中、柔軟な対応が行えていると思う。子どもを心で育む教育が行われており、とても素晴らしいと思った。</li> </ul>  |
| 3              | <ul style="list-style-type: none"> <li>センター的機能としての役割を積極的に実施している様子がうかがえる。是非、引き続き地域の学校における実態把握と支援ニーズの検討を行っていただきたい。</li> <li>継続教育も実施されており、児童生徒に対する教育や発達支援が長期的な視点で行われている。</li> <li>病弱児教育への理解を促すための情報発信が工夫されて行われている。(現状が把握できておらず既に実施されているかもしれないが)、病院敷地内においても貴校の取り組みや児童生徒の成長の様子が発信できると、より広く知っていただく機会になるのではないかと。</li> <li>時代のニーズに合わせて、専門性の強化が行われていると思う。その専門性を活かしてセンター的機能の推進を図っていただきたいと考える。</li> </ul> |
| 3              | <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の負担軽減に向けて工夫がなされている。</li> <li>教材等の情報共有システム(学校内外)の構築等により、特に若手教員の育成につながる対応も今後の課題として検討されたい。</li> <li>難しい問題ですが、よく取り組まれていると思う。自分も見習わないといけないと感じた。</li> </ul>  |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。